



9月も中旬にさしかかります。標題の『白露』のように、少しずつ秋の訪れを感じるようになりました。さて、今号では、本校の特色ある教育活動の一つである『総合的な学習の時間支援事業』を中心にお伝えしていきます。

「学校に子牛がやってくる」プロジェクトを通して

今年で4年目となる「子牛ふれあいファーム」。今年度は9月6日（火）に本校にやってきましたが、台風11号の接近などの理由から1日のみの滞在となりました。子ども達も子牛とのふれあいを楽しみにしていただけに寂しさを感じていたようでした。

さて、この取組は、「子牛が学校にやってくる」ことに付加価値を付け、さまざまなプロジェクトへとつなげ、本校の特色ある教育活動へと高めています。

本校では、定期的な学校評価や学力・体力等の全国的な調査の結果に基づいて学校改善を進め、帯広市教育基本計画などに基づいて環境モデル都市の指定にふさわしい環境教育や「フードバレーとかち」を踏まえた食育、学力向上に関する取組など特色ある教育を一層進めています。

今号で触れる「総合的な学習の時間支援事業」とは、学校が独自に目標を設定し、積極的に企画提案する取組を通して、地域総ぐるみの教育活動を展開し、地域の学校として信頼され、自立できる学校づくりをねらいとするものです。

- ポイントは次の3点です。
- ① 環境モデル都市にふさわしい環境教育
 - ② 「フードバレーとかち」を踏まえた食育
 - ③ 地域総ぐるみの教育活動の展開

以下、ダイジェスト版をご覧ください。

森の里小学校 **総合的な学習の時間支援事業**

本校の伝統である環境教育や「フードバレーとかち」を踏まえた食育、地域人材を活用したキャリア教育、学び合いやグループ交流、地域連携を重視した学力向上（制作文など）、動物とのふれあいをとおした豊かな心の育成など、様々な分野で総合的な学習の時間支援事業を活用しています。

さまざまな学習支援

9月6日実施

帯広市立森の里小学校 子牛ふれあいファーム

環境教育から環境学習 身の大切さについて学ぶ

帯広市立森の里小学校 子牛ふれあいファーム

ふるさとを学ぶ自然授業の発展

地域と連携した環境づくり

学習者と連携した環境教育

帯広市立森の里小学校

ふるさとを学ぶ自然授業

*裏面に続きます

牛乳を通して学びを深める『ふるさと学習』 ～牛どのふれあいファーム（キャリア教育講演会）～（5年）



廣瀬文彦氏（酪農家）



平田昌弘氏（大学教授）



羽山正彦氏（シェフ）



下森初実氏（栄養士）

水村亮平氏（獣医師）



西山修一氏（高校教員）

中川康寿氏（加工製菓）



写真の資料は、『子牛ふれあいファーム』が各教科との関連性をもたせながらキャリア教育へとつながる様子を表しています。今後、各学年でプログラムを計画的に進めていきます。過日、4年生は広瀬リバティファームで「乳業ふれあい体験学習」を終えたところです。

*詳細は1階掲示板（職員玄関付近）に掲示していますので、来校された際にご覧ください。

放課後の過ごし方を今一度考えよう

夏休み明け以降も多くの子ども達が放課後、学校のグラウンドでサッカーをしたり、逆上がりの練習をしたりと日々、元気な姿が見られます。9月に入り、日の入りも少しずつ早くなってきました。この時期は、薄暮時に交通事故が多く発生している現状もあります。最近、地域の方々から、「自転車の乗り方が乱暴だ」とか、「子ども達が交通量の多い道路を集団で渡っている」などの連絡を受けることがあります。特に、下の写真の2箇所に集中しています（上の写真は本校の西通用口からの横断、下の写真は南商高北側のT交差点の横断）。



学校だより（夏休み向け特別号）にも掲載していますように、ご家庭でも『交通ルールを守り、正しく自転車に乗る。』『止まれ、見る、待つ』などの確認をあらためてお子さんとしてください。

学校でも、折に触れ、継続して指導しています。

どうぞよろしくお願いいたします。

後記

今号の標題「白露（はくろ）」（二十四節気のうちの一つです）は、夜中に大気が冷え、草花や木に朝露が宿りはじめる頃。降りた露は光り、白い粒のように見えます。日中の暑さも和らぎはじめ、秋の気配が深まっていくのが実感できるようになりました。

